

Q3: T・Tや少人数指導には、どのような指導方法が考えられますか。

個に応じた指導の充実



(1) 学級を単位とした場合

右の図中では、
○は教師、
●は児童生徒
を表します。



(2) 学級の枠を超えた場合

この場合は、複数の教師による少人数指導になります。ここでは、指導方法の違いを基に、2学級を3つの学習集団に分ける方法を紹介します。

- <参考>**
- 指導体制**
- T・T
 - 少人数指導
- 指導方法**
- 習熟度別学習
 - 問題解決学習や体験学習
 - 個別指導やグループ別指導
- 「学力向上ハンドブック」(県教育委員会 H16.4)

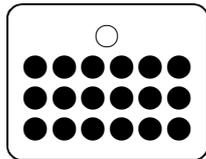
指導方法の工夫・改善

児童生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、教師は児童生徒の特性等を十分理解し、個に応じた指導を行う必要があります。

そのためには、学習のねらいを踏まえた上で、児童生徒の発達の段階や学習の実態などに配慮しながら、従来から取り組まれてきた一斉指導に加え、複数の教師によるティーム・ティーチング(T・T)や学習集団を少人数で行う指導(少人数指導)等の指導体制を柔軟に取り入れて授業を行うことが大切です。

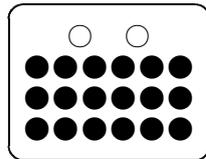
ここでは、学級を単位とした場合と学級の枠を超えた場合に分け、T・Tと少人数指導についてどのような指導方法が考えられるか例を示しますので、各学校での取組の参考にしてください。

◇ 1人の教師による一斉指導



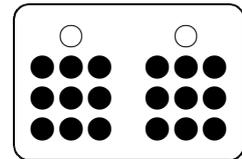
※まずは、従来の一斉指導において、個に応じた指導を充実させることが大切です。

◇ 複数の教師によるT・T(一斉指導)



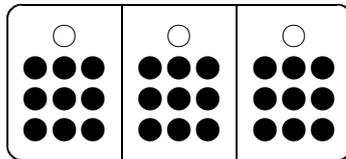
※T1とT2が授業の途中で役割を交代したり、T1が主で授業を行い、T2が支援を行う方法等が考えられます。

◇ 複数の教師によるT・T(少人数指導)



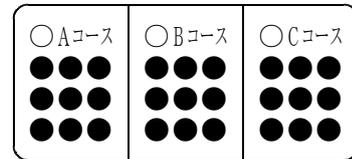
※授業の始めから、または一斉指導の途中から、均質、興味・関心、習熟の程度に応じた学習集団に分けて指導する方法等が考えられます。

① 均質に分けた少人数指導



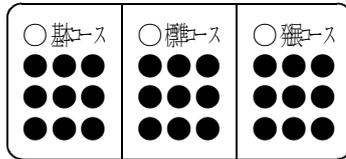
※学習集団を少なくすることで、発表や演習・練習の回数や時間を増やしたり児童生徒一人一人への支援をきめ細かに行ったりできます。

② 興味・関心等に応じた学習課題別の少人数指導



※児童生徒の興味・関心、学習スタイルの違い等に応じて学習集団を編成し、それぞれの教師がコースに応じた指導をすることが考えられます。

③ 習熟の程度に応じた少人数指導



※各学習集団内の個人差を小さくできるので、児童生徒に応じた教材や進度で学習を進めることができます。学習のねらいは同じなので、同じ評価規準を設定し、各コースに合わせた指導を工夫します。

T・Tや少人数指導を行う際の留意点

- ・それぞれの指導体制のメリットを生かしましょう。
- ・年間指導計画に位置付けて、計画的に行いましょう。
- ・単元に入る前に指導計画を確認し、教師の役割分担を明確にしましょう。
- ・それぞれの指導方法に応じた授業展開を工夫しましょう。
- ・単元や単位時間の評価規準を明確にして、どの場面で、どのような方法で評価するか、共通理解を図りましょう。

T・Tや少人数指導を単に取り入れただけでは、よい効果が期待できるとは限りません。個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、補充的な学習や発展的な学習を取り入れた指導等、学習のねらいに合わせて指導方法を工夫改善し、児童生徒一人一人の学習意欲や学力の向上を図ることが重要です。

具体的な指導方法や実施上の留意点については、次年度に掲載する予定です。